

壁代具

雙充也。自下志天。上佐萬江奉仕也。先一人者下仁。肱金一隻於打天一人者足代仁。登天上江引上仁。肱金一隻於打之後。次第仁引廻天。間久波天。一間別三所。五並奉仕之。如先規者。御柱乃中仁。奉打之。然間壁代。絹與柱乃際。寄合須志。爲神寶被破損之間。去文永遷宮之時。肱金百三十。二隻。今十八隻。於申副天。御柱乃兩方之壁際。仁押廻天。奉仕之。已上五百五十隻。官下也。

〔大饗雜事〕一壁代 在綱永夏壁代

〔大饗雜具目錄〕大饗雜具永夏四年七月廿五日〇中略

一壁代夏 一同綱

立薦

〔倭名類聚抄十四屏障具〕縛壁 釋名云。縛壁以席縛著於壁也。漢語鈔云。防壁多部古毛

〔箋注倭名類聚抄六屏障具〕下總本傳作縛。刻版本同。原書作搏。按楚辭九歌云。薛荔柏兮蕙綯。王逸注

云。柏搏壁也。洪興祖曰。搏一作搏。未知傳縛搏孰是。

〔伊呂波字類抄太雜物〕縛壁タツコモ

〔倭訓栞中編十三〕たつこも 和名抄に防壁をよめり。立薦の義也。儀式帳に蒲立薦あり。

〔古事記下履中〕本坐難波宮之時略。爾阿知直白。墨江中王火著大殿。故率逃於倭。爾天皇歌曰。多遲比

怒邇泥牟登斯理勢婆。多都基母母。母知氏許麻志母能泥牟登斯理勢婆。

〔古事記傳三十八〕多都基母々は防壁もなり下母。和名抄に。釋名云。縛壁以席縛著於壁也。漢語

鈔云。防壁多都古毛とあり。大神宮儀式帳に蒲立薦三張外宮儀式帳にも如。此見主計式に。防壁

一枚長四丈。廣七尺。と見ゆ。此らとこの御歌とを合せて思ふに。席を續合せて。屏風の如く立る物と

見えたり。名は儀式帳に書る如く。立薦の意なるべし。和名抄の縛壁は少し當り。たし縛著於壁と云は違へり。

〔延喜式五齋宮〕齋宮鋪設

蒲防壁十枚カマノカベシロ タツコモ

右以京庫物充之。隨壞替之。

〔皇大神宮儀式帳〕鋪設略。中蒲立薦三張 以上宛太神宮司以祭日敷用。